

## 先を見据えた行動

有限会社 村尾

代表取締役

村尾 秀樹 さん

住 所 本社

大川市大字小保30

TEL : 094418612523

FAX : 094418612794

H P : <http://www.murao.co.jp>

今月の夢追い人は有限会社村尾の村尾秀樹さんにお話を伺いました。

(有)村尾は、平成8年に法人成りし、今年で16年目となります。その始まりは大正時代、お米の卸売業で創業されて現在に至るそうです。

「現在はパートを含めて、従業員が14名働いています。そのうち2名はカンボジアからの職業技能実習生ですね」

主に米や灯油、LPガスの提供などを行っている会社でしたが、村尾さんが継がれてからは、上下水道工事も行いうようになり、現在は住宅リフォームなども手がけられているとのこと。

「先代である父が昭和40年頃から米の販売量のデータを取っていました。開始当初から私が会社に入った頃まで、

すでに日本の米の消費量が3分の1にまで減っていました。比べてみると、会社の販売数量も同じような推移でした。このまま米や灯油を販売しているだけでは、会社の売上も先細りになっていくことは目に見えていました。また米の販売自由化の煽りもありましたね。今ではスーパーやコンビニなどでも買えるのが当たり前になりました」

そういった時代の流れがあり、上下水道工事などを請負うようになったそうです。

「プロパンガスを長年やってきましたので、配管工事に関する基本的な知識はありました。そこから資格を取得して、実際に工事を行えるようになりましたね。リフォームに関しては、住宅だけでなく店舗のリフォームを手掛けることもあります。建築士や設





計士の資格は持っていませんが、住宅のことに関してはすべて理解できるように知識をつけて、お客様のご要望に応えられるような態勢をとっています」

現在は新築の給排水設備とリフォームに力を入れて取り組まれていると話された村尾さん。国の補助金なども積極的に活用されているそうです。「小規模事業者持続化補助金などを活用して、会社のホームページのリニューアルやキャッシュレス決済の導入、非接触型の決済方法の推進にも力を入れていますね。口座からの自動引落の制度は以前からありましたが、クレジッ

トカードで決済を行えたり、SNSを利用したプッシュ型の販売方法も推し進めていきたいです」

また、ご自身が4代目にあたると話された村尾さん。学生時代は大川を離れ、東京で過ごされたそうです。

「ちょうどバブル期にあたる時代でした。バブル崩壊までの浮き沈みを東京で直に見てきて、ふと東京での将来像が掴めないなと気づきました。それよりも故郷に帰って、仕事をしたいなと思いましたね。お勤めされている方には退職金がありますが、商売をする方には退職金がない代わりに、お客様という財産を引き継ぐことができます。それが退職金代わりになると思うんです。祖父や父がやってきた仕事を引き継ぎ、その退職金を増やして次の世代に繋げたいと思います、家業を継ぐことにしました」

そんな村尾さんが社長として心がけていることはなんでしょうか。

「先を見ること、予測することを常に考えて仕事をしています。事業計画としての5年先、10年先だけではなく、全体的、社会的なところまで考えを巡らせて仕事をしようには心がけていますね」

社長として、先を見据えた行動を心がけられている村尾さん。現在は「NPO法人小保・榎津藩境のまち保存会」や「しんきんニューリーダーズ・クラブ」などの団体にも所属されています。

「保存会では、古い街並みを残し、後世に伝えていく活動などを行っています。本社が小保にありますので、地域の活動にも力を入れていますね。藩境まつりにも発足当初から関わらせていただいています。行政とも協力をしながら、自分たちの歴史ある街並みを次の世代に残していくのも、住んでいる者の使命だと考えています。」

しんきんニューリーダーズ・クラブは大川に戻ってきて、初めて所属した経営者団体で、25年ほど所属していますね。商工会議所も経営者にとっても大事な団体ですが、しんきんニューリーダーズ・クラブは会議所とは特色が違い、より商売に特化した話や金融機関との付き合いなど、こちらも経営者にとってもとても勉強になる団体ですね。やはり色々な団体に所属して、勉強することや異業種の方と交流を深めていくことも経営者には必要だと思います。今年からしんきんニューリーダーズ・クラブでは会長を務めています。45人ほど所属する団

体ですが、今年度は卒業者も多いので、会員拡大にも力を入れていきたいですね」

商工会議所青年部や大川青年会議所にも所属されていた村尾さんですが、役職を務められるタイミングと周年事業がよく重なっていたそうです。

「しんきんニューリーダーズ・クラブも今年30周年を迎えるので、周年事業を計画しています。こういった団体に所属して活動していくことで、街全体が潤っていく何かになれたらいいなと思っています。街全体が潤い、会社が潤い、その従業員が潤い、暮らしがよくなっていけば私達の商売も潤う。そう願って仕事や活動を続けています」

経営者として、商売人として、常に邁進されている村尾さん。そんな村尾さんの夢はなんでしょうか。

「会社は生き物だと思っていますので、しっかりとした後継者をつくるのが、私が社長になってからの使命だと思います。子どもが3人いますが、息子たちに必ず継がせるわけではなく、競争したなかで後継者を選んでいきたいです。親から能力が備わっていない子に会社を継がせることは、社会的な悪だと考えています。リーダーとし

て相応しい人にリーダーを務めてもらえるような体制を整えたいです。トップの責任や経営者としての役割は次の世代を育てることでもあると思います。きちんとしたバトンタッチをやっていたいのですが、そういうことができる会社にしていきたいですね。そして次のリーダーに会社を引き継いでもらった暁には、お気に入りのオープンカーで妻と遠方までドライブに出掛けたいです。それが実現できるように、経営者として事業を続けていきたいですね」



しんきんニューリーダーズ・クラブ視察の様子